

コミュニティバスやわたダイヤ・ルート再編検討について

■ コミュニティバスやわた乗降客調査

① 調査目的

コミュニティバスやわたのルート・ダイヤ再編検討の基礎資料とするため、各停留所の利用状況を把握することを目的とする。

② 調査期間 令和5年9月25日(月)～10月1日(日)

③ 調査方法

調査員が1週間、コミュニティバスに乗車し、各停留所における乗車人数と降車人数を計測し、停留所の利用状況をまとめる。

④ 調査結果(資料 3-2、3-3 参照)

- ・ 男山泉、生涯学習センター前、おさ田、市役所庁舎前、八幡小学校前の停留所は1日あたりの利用が30人以上と多い(資料 3-2)
- ・ 一区公会堂～ありあけ公園間および都集会所以東の停留所は1日あたりの利用が10人以下と少ない(資料 3-2)
- ・ 昼間(3・4・6便)の利用は多く、朝夕(1・10便)の利用は少ない(資料 3-3)
- ・ 日曜日の利用は、他の曜日と比べて少ない(資料 3-3)

■ 調査結果の考察

- ・ 公共施設や医療機関を最寄りとする停留所の利用が多い
- ・ 公共施設や医療機関の利用を目的とした方が多く、日曜日はこれらの機関が休業しているため、利用が少なくなる傾向にある。
- ・ 鉄道駅に接続していないことから通勤・通学を目的とした利用者がいないため、朝夕の利用が少なくなっている。

■ 幹事会の意見

- ・ 運転士不足の問題が顕在化しているが、運転士の確保は大丈夫か
- ・ 折り返し時間に余裕が持てれば遅延解消には繋がる
- ・ 利便性を向上するなら鉄道駅に接続する方法を検討しては